R35GT-R×R888R Drift

ドリフト界のトップブランド
サーキットでの実力はいかに!?

チューナー&ドライバーが語る トーヨータイヤ・プロクセスの戦闘力

国内トップクラスのGT-Rチューナーが集うCLUB RH9サーキット走行会。2024年シーズン、ショップの実力をより明らかにするため、タイヤのワンメイク化を決断! その試みに協力を申し出た『TOYO TIRES』が供給する「PROXES R888R Drift」はD1GPを制した高性能モデル。その潜在能力をタイムアタックシーンで評価した

まとめ:山崎真一　写真:清水良太郎/駒杵智子/増田貴広
問TOYO TIRES ☎0800・3001456　https://www.toyotires.jp

PROXES R888R Driftとは!?

走りを極めたスポーツラジアル「PROXES R888R」をベースに、ドリフト競技で勝つための専用スペックが投入されたモータースポーツ用タイヤ。D1GPで'23年に総合優勝を果たした実績を携え、初の本格タイムアタックに挑む。今回は全車285/35R20サイズを装着

WING TAKEO

温まりが早く、即アタックラップに入れる

藤波清斗
「速くは走らせるにはタイヤの特性を知るのが先決。基本性能は十分なので、タイムアタックに向けた開発陣のさらなる合わせこみに期待です」

1200psを受け止め、RH9で鈴鹿のレコードを持つ『ウイングタケオ』のR35。R888R Driftの性能を見極めるにはうってつけの個体だ。ドライブしたのは藤波清斗選手。「R888Rは走り始めてすぐにアタックに入れるほど、温まりが早いのには驚きました。ただ、調子に乗って早めからペースを上げると、鈴鹿では最後まで持たないので、アタックのタイミングをこれまで以上に考える必要があります。グリップ力は1200psではやや物足りなさを感じる部分もありましたが、それでも2分6秒台という結果を得ました。タイヤに合わせたセットが煮詰まれば、不満を解消できる可能性はありますね」

竹尾美彦代表
「他銘柄と比べて温まりは早いものの、性能の持続性はやや短め。まさにドリフト競技向きという印象です。ただ、想像以上にグリップ力は高く、タイムも出る。アタック用として大事な要素を持ち合わせています」

PITROAD M

荷重をかけすぎさせずに走るのがタイム向上の秘訣

阪口良平
「タイヤ以外、'23年とほぼ同じ仕様なのでタイムアップは明らかにタイヤの実力。走ってすぐにしっかり感が伝わるので初心者にも安心です」

ピットロードMが持ち込んだ2台のR35はいずれもブーストアップ。MY20は2分10秒台を記録するなど、熟成が進んでいるマシンだ。担当の阪口良平選手はTOYO TIRESを使ったテストに参加しており、他のドライバーよりも一日の長がある。「R888R Driftで速く走るには癖を掴むことが何よりも重要です。熱伝導率が高いので、冬場でもすぐに安心感を得られるのは強みですね。あとは荷重をかけすぎないことを意識して走れば、つねにパフォーマンスを引き出せます。タイヤの特性に合わせた最適な内圧とセットアップ、走らせ方を見つけられれば、さらなる好タイムも夢ではありません」

森下幸弘代表
「アタックラップはライバルとも遜色ないタイムを刻めましたが、タイヤの特性を活かしたセッティングを導き出せたとまでは言えないので、伸びしろはまだあると思います。尖ったところもなく公道も普通に使えますよ」

WASTE SPORTS

基本性能は合格点。マネージメント次第で速くなる

山田英二
「ドリフトで磨き上げられた経験が活きており、タイヤをかきながらも前に出る縦のトラクション性能はバツグン。この強みを活かしたいですね」

今回は過給圧が上がらない不具合が起こったが、本来の実力は1100ps超のモンスターである『WASTE SPORTS』のR35。最速奪還を目指すマシンとR888Rとの相性を山田英二選手が語る。「想定していた以上のタイムが出ましたが、フィーリングはこれまで乗ってきたタイヤと比べると違和感がありました。ただ、これはTOYO TIRESの特徴だと理解しました。比較的短い時間でしたが、ゴムの柔らかさを上手く使いながら、接地を逃がさないように走るのが現状のベストと感じています。'24年はあくまでもTOYO元年、'25年はより理解が深まるでしょうから、タイムは伸びると思います」

亀谷治夫代表
「表面のグリップやGT-Rとの基本的な相性は高いですが、1000psオーバーのR35に対してはタイヤ幅が足りない印象も…。ただ、単に幅を広くしても性能を引き出せないので、そこは開発陣の努力に期待です」

今村英明代表
「これまで使ってきたタイヤと特性が異なるため、それを理解することが最速への優先の課題です。想像以上のグリップとタイム的にも満足しています。連続周回しても表面ブロックが崩れない安心感も魅力です」

Ruch Factory

セットアップなしで好記録。素性のよさが光る

柴田優作
「R888Rを履いての初アタックでしたが、ポン付けで想定以上のタイムが出ました。ポテンシャルはあると思いますので今後が非常に楽しみ」

走行会を楽しむR35ユーザーが集う『ラッシュファクトリー』。最低限の変更とセットアップで好タイムを目指すのがポリシーだ。デモカーは現在1000psに到達。開発を担当する柴田優作選手がアタックした。「想像していた以上にグリップ力が高く、とくに縦方向が強くて、ブレーキからのターンインの反応が秀逸。タイヤの発熱がよく、すぐにアタックラップに入れますが、鈴鹿サーキットのようなロングコースではコントロールが必要ですね。それでも、今回のアタックはどのショップもセットアップを変えずに、タイヤだけ交換してのトライなのに、これだけの数字が出ているのは、評価に値します」